

子育てアドバイザー

おかたづけを子どもと一緒に楽しみましょう

上手なおかたづけとは・・・

物の価値を幼い子どもにどう伝えるか、なかなか難しい問題です。子ども達は物心ついたところから「捨てる文化」の中で育っています。子どものしつけで「おかたづけ」はずっと親が頭を抱える問題であるとともに、大人だっておかたづけは好きではなく上手でない人はたくさんいます。子どもの辞書に「おかたづけ」はないと言われていくそうです。なんとなくわかる気がしませんね。

兄弟が生まれると、けんかをしながらも仲良く遊ぶようになり、家の中は兄弟の年齢に応じたおもちゃが二人分散乱しますから、足の踏み場もないようになり



ます。そして1日に何度かは「おかたづけをしなさい！」と号令がかかります。でも、多くの子ども達は遊びのまっ最中で、すぐ切りかえはできません。遊び続ける子どもにお母さんは「おかたづけができないなら、おもちゃをゴミ箱に捨ててしまえますよ。」などと子どもの目の前で、捨ててみせるお母さんもいます。子ども達はお母さんの風を恐れをなしてしましますが、少し勇気のある子どもは、大切なおもちゃを救出しに行きますが、ほとんどの子どもは身動きできません。さて、捨てられたり、放り

出されたおもちゃの運命はどうなっているのでしょうか。多くのお母さんは、何日もたたないうちにおもちゃ箱に戻すことで、親は本気でおもちゃを捨てないことを学習します。

さらに賢い子どもは、殺し文句の「捨ててしまえますよ。」を逆手にとって、「捨ててもいいよ。」と逆襲して、親のおどし文句を無力化します。おかたづけの習慣と、物を大切にする価値観とは、分けて考えたほうがよさそうです。

ユーモアや知恵を使って一枚上手をいく

あるお母さんは「捨ててしまえますよ。」では効果がないので考えたそうです。「サンタクロースのおじさんが大きな袋を持って来て、おかたづけのできないおもちゃを集めにまわるのよ。クリスマスに世界中の子ど

もに配るおもちゃがたくさんいるから、夜中に子ども達が眠っている間に持って行ってしまっんだって。」子どもは顔色を変え、大急ぎでおもちゃをかたづけはじめました。それから毎晩、夜寝る前に心配そうにおもちゃをかたづけ、「今夜はサンタのおじさん来ないよね。」と聞き、「だいじょうぶよ。」というお母さんの言葉を聞いて、安心して眠りにつくようになったということです。

子どもの心理を上手に利用してきな方法ですね。子どもをしつづける時、しかったりおどしたりするだけではなく、ユーモアや知恵をつかって一枚上手をいくのも楽しいと思います。遊びの途中でおもちゃをかたづけたり、遊びを中断



させられる必然性を、幼い子どもには理解できません。子ども達にとって必要なのは、予告してあげることと、一緒になってかたづけてくれるお手本なのです。

どんなに幼くても、自我をもって生活している子どもにもいきなりブレーキをかけるのは無理です。「車と同じで遊びは急に止まれないのです。」もうすぐ食事だから遊びはおしまいにしなさい。」と、余裕をもって予告して、おかたづけは一緒にかたづけて、お手本と手順を見せましょう。子どもと一緒に楽しくかたづけてくれる人がいれば、遊び感覚でおかたづけを手伝うようになります。習慣が身につくまで、おかたづけは一緒にしましょう。

おかたづけ能力は両親のいずれかを習得しているそうです。

子育て支援センター

☎5212315